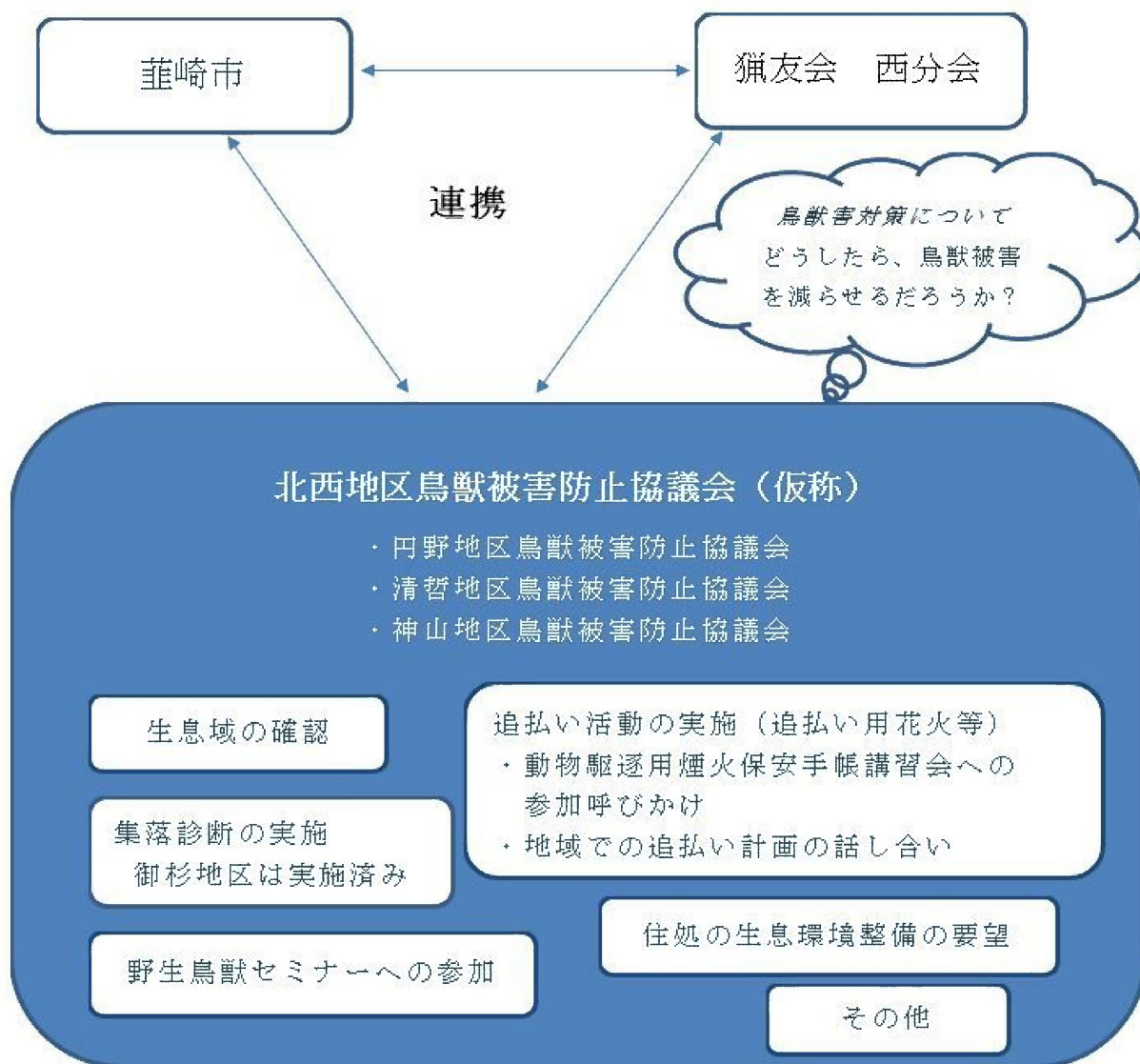


4. 北西地区の今後の取組みについての提案

【目的】

地域鳥獣被害防止協議会(仮称)を立ち上げ、地域住民が今後の対策を協議し、市や猟友会と連携を取りながら鳥獣被害を減少させる。

【取組み体系】



※地域鳥獣被害防止協議会の立ち上げ提案について、各町毎に意見をまとめ、代表区長様から各町選出の議員に結果をお知らせ下さいますようお願いいたします。

2. その他 ※過年度テーマの進捗状況報告、テーマ以外の地域住民からの要望、意見等への回答

(1) 大村博士生家及び土蔵再生改修工事について

【総事業費】 158,500,000円

| | | |
|------|---------------|------------------|
| 財源内訳 | 国・地方創生拠点整備交付金 | 79,250,000円(1/2) |
| | 国・地方交付税措置 | 39,600,000円 |
| | 市・事業債 | 39,600,000円 |
| | 市・一般財源 | 5,000円 |

【工期】 令和2年4月13日～令和3年3月20日

【事業の内容】

本事業でリノベーションする螢雪寮は、ノーベル医学・生理賞を受賞された大村智博士の生家であり、昭和初期の養蚕農家の形態を成し、かつて養蚕が盛んであったこの地域の面影を残す数少ない建物として、国の登録有形文化建造物として登録されました。

この大村家生家を建設当時の状態へより近づけ、後世まで保存するため、解体修理・復元を文化庁の指導のもと実施し、文化財としての価値を損なわないように貴重な遺産として整備を図るとともに、偉人を生み出した研修施設として、隣接する葦崎大村美術館とあわせ、子どもや若者から大人の方々の研修施設や企業合宿などのセミナーハウスとしての活用を図り、交流人口の増加を見込みます。また、お試しシェアハウスを整備し、移住定住者の受け入れ体制を整えることにより、転入者を増やし移住定住の促進につなげ、人口減少対策に少しでも歯止めをかけることを期待します。

具体的には、生家については、地域住民、学生や企業の方々がセミナーをはじめ多様な利用ができ、多くの人が集い、学ぶことのできる交流拠点施設として、土蔵の2階については、第2次世界大戦時疎開者のために活用されたという歴史のある施設を田舎暮らしが体験でき、移住・定住促進の拠点施設となる簡易宿泊施設(お試しシェアハウス)として、また、土蔵の1階については、生家及び土蔵の利用者が自由に料理や飲食、会談等に利用できるフリースペースやシェアキッチンとして活用するため、改修を行うものです。